

最近、東京スカイツリー偉容が放映される事が多くなり、多くの人々の関心を呼んでいるので百聞は一見に如かずと急に思い立って2、3の友人を誘って君津駅発 10 時 50 分の快速電車へ飛び乗りました。

この日は前日から東京赤坂は雪が降り積もっていると伝えられた寒い日でありました。家を出る時、頭の中で途中京成に乗り換えるか東武にするかと一瞬迷いましたが、錦糸町からですとタクシーで千円以内?!と判断して錦糸町駅北口からタクシーで押上商店街へと向かうルートを選びました。

結果、予想したよりずうっと近道となり、タクシー代710円で着きました。

墨田区押上1丁目1番地2号のスカイツリー建設現場は、境界南側には城を囲む内堀の様に北十間川が流れ、川沿いに西側のとうぶ橋を渡ると浅草通りに面して更に道路沿いに北へ出ると東武鉄道本社と駅への地下通路口が続き、しばらく歩いて東へ右折すると京成本社となり、気がつくスカイツリーは東武と京成の敷地 39,600㎡の中央部分に立っておりました。またこの地点は京成押上駅と東武伊勢崎線業平橋駅の合流する隣接する恰好な位置にありました。正面に大きく「4月17日 349米」と示されておりました。

高さ約 634 米、世界一のスカイツリーは総工費 500 億円、東街区地下 3 階、地上 31 階、西街区地下 3 階地上 7 階、駐車場 1000 台の建物街区は来年 2011 年 12 月竣工、2012 年春開業を目指しております。遠くから見ますと円形型ですが足元は一辺が約 70 米の正三角形で立ち上がり、途中から角のとれた「おむすび型」となり、300 米あたりから正円形となって伸びていますと現場の方が教えてくれました。

この土地は東武鉄道の貨物操車場と生コン工場の跡地ですが、ツリーのボリュームが余りにも大きいので広い敷地が狭く感じられました。

多分タワーから見下ろす関八州の景色が売り物となるでしょうが、今は仰向いて近くで眺めるよりも浅草から業平橋、駒形橋、吾妻橋を渡って歩いても 20 分、1 番よいのは隅田川を船で上り吾妻橋で上陸するコースは面白いと思いました。

食堂の親父さんも喫茶店の娘さんも「この塔が完成するまでは見物客がいっぱい来られて店も繁盛しておりますが、スカイツリーが開業したら客は来ないでしょう!大型店や大型観光施設は客を外に行かすような下手な商売しないでしょう…」と開業後に余り期待をしない様子でした。タクシーの運転手も「商店街は変わらないでしょう」と同じような答えが返ってきました。この周辺は池波正太郎や藤沢周平が好んで書いた地名堀川がいくつもあり、亀戸天神、伊藤左千夫の墓、能面、屏風、金庫、ガラス、くず餅の船橋屋等下町特有のミニ博物館も近くに多いので、私はツリーと隣接する浅草、下町の相乗効果は日本を代表する観光地と内外の脚光を浴びると思っています。

今までの東京タワーの歴史は 48 年間、観光客は平均年 3 百万人で、1 億 5 千万人でした。

浅草、隅田界隈は倍以上の人を集め、スカイツリーだけが脚光を浴びる街ではなく、これを活用した商店街づくりに知恵と勇気を期待したいものです。

寒い夕日のせいか赤さびた下町の商店街が目に残ったが、スカイツリーと共に光り輝く街となって全国の多くの中小商店街に希望を与えてくれる様祈りながら、夕暮れを迎えた隅田界隈を後に帰ってきました。

4月17日(土)

